



明るく たくましい 明世の子

ビカリア

令和5年度
瑞浪市立明世小学校
NO. 4
R5. 6. 30

「はないちもんめ」が聞こえる学校

かってうれしい はないちもんめ まけてくやしい はないちもんめ
あのこがほしい あのこじゃわからん このこがほしい このこじゃわからん
そうだんしましょ そうしましょ きいまった ○○くんがほしい ○○さんがほしい

校庭から、子供たちの声が聞こえます。1・3年生が中心ですが、ほかの学年の子も加わります。人数が増えると、3列にして、遊びが続きます。自分の名前が呼ばれるのはうれしそうです。この様子を見て、下のようなことを考えました。



まず、新型コロナウイルスによる空白の時間を取り戻す必要がある、と思いました。手をつなぎ、大きな声をだして遊ぶ。これが子供には必要だ。子供は「くるくって(方言)遊ぶ」ことで、子供らしく成長するということを思い出しました。そして、「愛着」について考えました。

子供にとって、愛着(アタッチメント)は成長するうえで大切なことです。専門家から聞いたことがあります。「愛着を十分感じることで、独り立ちができる。愛情と愛着は別のもので、愛着は何歳からでも、父母以外ともはぐくめる。ただ、その子と1対1の時間が必要である。」と。

コロナ前はたくさん接触がありました。頭を撫でる。熱があるか、おでこに手を当てる。子供同士でのプロレスごっこ。「お帰りなさい」のハグ。こうした接触で、子供は人の温かさを感じてきました。うちでは「お父さんは疲れたから、おんぶして。」と子供におんぶ(のまね)をしてもらったり、「ちょっと味見して。」と試食させたりして、わざと接触し、頼りにしていることを伝えました。「ケーキもらったから、分けっこしよう。」と同じものを食べ、おいしさを共有する時間もつくりました。

コロナ禍で薄まってしまった「愛着」「接触」。意識して子供と接していく必要があると思います。

次に考えたことは、「日本の文化を伝承することは大切だ」ということです。

子供たちは英語の学習を進め、タブレットを使って、いろいろな国の文化を学習します。望めば海外の人とも交流できます。いつか海外の人から「日本の歌を歌ってほしい。日本の伝統文化を紹介してほしい。」と言われることもあるでしょう。そんなとき、説明できる子供がどれほどいるか、と心配になりました。

さくらさくら、かごめかごめ、うさぎうさぎ、ほたるこい、などの童謡。俳句や短歌。けん玉やコマ回し、和だこの作り方、お手玉、折り紙、あやとり、着物の着方。煮物や漬物。紹介したい日本の文化がたくさんあります。学校でできることは、ほんの一部です。ぜひ家族で話題にしてください。

さて、6月には、児童の「なかよし委員会」による「なかよしまつり」が行われました。1年～6年生の縦割りグループで協力して、校内のクイズやゲームをクリアしながら回ります。このグループで掃除もします。異年齢による触れ合い、助け合いで、我慢することを覚えます。思いやりの姿もたくさん生まれます。もめごとを乗り越えることも体験します。触れ合いながら子供たちは育っています。